人と自然が一体となるフットパス

黒松内フットパスクラブ
会長　蛯沢　儀弘 さん（えびさわ よしひろ）
黒松内町観光協会事務局長　河又　健尚 さん（かわまた たけひさ）


会長の蛯沢さん（左）と事務局長の河又さん（右）

農山漁村における地域の活性化や、個性的で魅力ある地域づくりの優れた活動を紹介するシリーズ。

今回は「わが村は美しく－北海道」運動第10回コンクールでNPO特別賞を受賞した「黒松内フットパスクラブ」の皆さまに、お話を伺いました。

≪フットパスとは≫

イギリスで発祥した「歩行者専用の道」

町や村、森や川を歩き地元の食を味わいながら、それぞれの地域の歴史･文化･風景をスローな視点でゆっくりと楽しむ道のことをいいます。

黒松内フットパスクラブは、ブナをシンボルとした黒松内町のまちづくり「ブナ北限の里づくり」の取り組みの一環として活動を始めました。本場イギリスへと視察を行い、会員が手作りでコースを整備し、今では“チョポシナイコース”をはじめとする４コースが設定されています。

いつでも、誰でも参加でき、会員の手作りの看板を頼りに自由にフットパスウォークが楽しめ、希望すればガイドの手配も可能です。昨今は全国的に熊の出没が相次いでいることから、大勢で歩くと安心ということで、フットパスイベント界隈も盛り上がりを見せています。



≪年３回のイベント開催≫

イベントは、テーマを決めて開催しています。

春は「新緑」：木々が芽吹き鮮やかなみずみずしい若葉を茂らせた森林浴を楽しめます。

秋は「食」：まちのお菓子屋さんのスイーツや農家の新鮮な野菜が味わえます。

そして､冬はかんじきを履いて雪の中を散策できます。

年３回、四季を通して黒松内町を存分に味わえる内容となっています。

≪北限のブナ林に囲まれた癒しのまち≫

黒松内町の魅力は、おいしい水と澄んだ空気です。滋養豊かな土壌を作るブナ林は「森の母」と呼ばれ、その高い保水力から別名「森のダム」とも称されます。ブナの森に降った雨は長い時間をかけてゆっくりと磨かれ、おいしい水をつくり出すとともに、アユが生息する清流の源となります。

ブナ林は黒松内町の誇りであり、欠かすことのできない貴重な存在です。２年後の2028年には自生北限のブナ林として天然記念物に指定されてから100年を迎えます。人と自然が一体となっている黒松内町の良さは、ゆっくり滞在してこそ伝わります。通過型ではなく滞在型を目指し、フットパスを通して黒松内町の魅力をＰＲしていきたいと、黒松内町を愛してやまない想いが溢(あふ)れます。

『時間を忘れて自然に溶け込んでみませんか…』

当協会ホームページ、「わが村は美しく－北海道」運動第１～９回受賞団体の活動概要をまとめた冊子『生産空間の活性化に資する地域事例集』をご覧ください。